

イソシギ

Actitis hypoleucos

シギ科・夏鳥



撮影：浦幌野鳥倶楽部

イソシギ

名前の由来

磯にすむシギという意味。古くは「かはちどり」「びいびいしぎ」の名で呼ばれた。「シギ」は「騒ぎ(さやぎ)」から来ているといい(新井白石、大言海)シギの羽音から考えられたのではないかと言う。漢字名：磯鷗

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)20cm。飛ぶと翼に白い帯が目立つ。尾をよく振る小型のシギ。

上面の黒褐色と下面の白色の対称が鮮やかで、腹部の白色部分が翼角のところ(翼の肩のあたり)で翼の上にくい込んでいる。

くちばしもシギの中では短めで、足も短い。足の色は黄褐色である。

飛び方・歩き方：短距離を飛ぶときには翼を弓なりに下げ、翼の先だけを小刻みに動かすという、独特の飛び方をする。歩くときには尾をよく振り、特に着地時には大きく下半身

を上下させる。水中を泳ぐこともあるという。

声：飛び立つときや飛んでいるときに、「チーリーリーリー」「ツーチーチーチー」と、非常に細い声で鳴く。繁殖期には、細い声で「ツーチリリーチーチリリー」と少し変化をつけて鳴く。



腹の白色が翼角のところで翼の上にくい込む

生息環境・分布

河川、湖沼などの水辺。水田や畑地にも採餌に現れる。岸辺の草地で営巣する。非繁殖期には干潟や岩礁など海辺にも現れる。十勝には4月中旬に渡来する夏鳥。

分布：ユーラシア大陸の中高緯度地方に広く繁殖分布し、アフリカ大陸中南部からインド、中国南部、東南アジアおよびニューギニア島、オーストラリア大陸に渡って越冬。日本には北海道、本州、四国、九州などに夏鳥として渡来して繁殖する。本州中部以南から沖縄県にかけて越冬する

ものがいるが留鳥ではない。

北海道(十勝でも)では夏鳥。4月中旬に渡来する。河川敷や湖岸などに生息するが、河川上流部でもダムや砂防ダムの周辺など開けた環境があると生息する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州中部以南(越冬期)												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

食性・他生物との関わり

水辺の昆虫類（主に水生昆虫）を捕食する。活発に水辺を歩きながら水面や泥の表面を、くちばしを箸のように利用してついでむ。特にユスリカ類をくちばしでつま取るようについでむ、あるいは石の間にくちばしを入れてトビケラ類などの幼虫を捕り、砂泥の中にくちばしを差し込んでブユの幼虫などを探り出す。水中を泳ぐことも

あるという。捕食者は猛禽類やキツネなど。

繁殖生態

繁殖期は4月～7月。繁殖期には、細い声で「ツーチリリーチーチリリー」と少し変化をつけて鳴く。一夫一妻が多いが、一夫二妻や一妻多夫の例があるという。岸辺の草地で営巣する。低木や草の根元などを浅く掘り、くぼみにして、枯れ草などをしいて巣とする。オスメス共同で作るが、初めはオスが作り出す。オスは様々な変わった行動（ディスプレイ）によってメスを呼び込む（→興味深い話の項参照）
ふつう4個の卵を産み、抱卵日数は22～25日。メスだけが卵を抱くらしい。（ヨーロッパの観察ではオスメス共同で抱卵）
孵化後数時間（～2日くらい）で巣を離れる。オスはヒナ

の近くで抱いたり採餌中付き添ったりし、メスは少し離れて捕食者や侵入者の警戒に当たり、近づきながら警戒音で威嚇するという。
ヒナは25日～30日ぐらいで親から独立するという。

興味深い話

- 繁殖期にはなわばりを形成するが、あまり厳密ではなく、行動圏が重なり合うこともある。なわばりの直径は80～150mくらいである。
- オスはメスが現れると、さえぎりながらディスプレイ飛行（メスや他の個体に対して誇示をおこなう、特徴的な行動）をおこなう。
- オスがメスを呼び込む際には、地上10～20mくらいの空中を旋回した後、自分の領域内で穴を掘る様な動作のディスプレイ（スクレイピングディスプレイ）を行う。
- 繁殖の初期にはメスは複数のオスを訪れ、気に入ったオスを選ぶ。オスは複数のメスを継続的に呼び込み、スクレイピングディスプレイを繰り返す。

■巣から離れた後、オスはヒナの近くで抱いたり採餌中付き添ったりし、メスは少し離れて捕食者の警戒に当たる。進入者が現れるとメスは警戒音を発して近づき、激しく警戒するという。またメスはオスより早く家族から離れる。

配慮事項

繁殖には植生の少ない、礫や砂泥地が必要である。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葦原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）
「原色日本野鳥生態図鑑（水鳥編）」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「野の鳥の生態 復刻版1～5巻」仁部富之助、大修館書店 1979